

令和5年度 事業計画書

— 事業計画 —

基本方針

山梨県から、「県立青少年センター」、「県立愛宕山こどもの国」、「県立八ヶ岳少年自然の家」の3施設を受託し、指定管理者として管理運営している。現在までの50年以上にわたる施設運営の経験を活かして、本県の児童・青少年健全育成事業など県民福祉の向上に向けた諸事業を進めるとともに、利用者サービスの向上や魅力ある自主事業の実施により、施設の利用率向上による収入の増加を図る。

また、地域や他団体との連携を強化し、社会のニーズに即した青少年の健全育成事業を行う。

事業実施計画

I 法人会計 協会の運営

- 1 理事会等の運営、理事会、評議員会等の諸会議を開催し事業を推進する。
- 2 本協会が実施する事業推進のため、集中経理によるコスト節減や自主財源の確保に努める。

II 公益目的事業会計 施設管理運営

1 県立青少年センター運営事業

青少年が、安心してのびのびと活動できる拠点として、また、個人・各種サークルや団体等の県民の活動や交流の場として、安全で快適にご利用いただけるよう、適切な施設管理を行うとともに、生涯教育の一環として、幅広い世代に対応した主催事業・自主事業を36事業実施する。

青少年センターは施設の集約化に伴い、令和5年4月1日にリバース和戸館を新本館としてリニューアルオープンする。令和5年度の取り組みとしては、新たにエレベーターが設置され、一部会議施設の設備の変更などリニューアルした施設の機能を最大限に活用し、利用者へのサービスの向上に努める。主催事業では、地域住民向けに多彩なイベントを開催し、これまで青少年センターが近隣の自治会、学校、企業などと連携して構築してきた信頼関係をより強固な関係としていくとともに、住民同士の交流を促進することで、防犯や防災、子育てに関するネットワークを形成し、青少年センターが地域コミュニティの拠点となることを目指す。自主事業では愛宕山こどもの国との共催事業として幼児教育に携わる指導者向けに研修の機会を提供する事業など、健全な青少年の育成に努め、「青少年育成山梨県民会議事業」においては引き続き、県内の青少年問題を育成団体と連携し対応しながら、運営の強化を図る。

これまで以上に多様な事業を展開することで、利用者が満足して利用できる施設づくりに努める。

2 県立愛宕山こどもの国運営事業

こどもの国は、山梨県のほぼ中心に位置し、甲府駅からも近く、広大で緑豊かな自然に恵まれた愛宕山一帯に、令和3年度から約2年の歳月をかけてリニューアル工事が行われ、新規に配置された大型複合遊具やハンディキャップの有無にかかわらず誰もが利用することができるインクルーシブ遊具を備えた施設である。今を生き、未来を担う多くの子どもたちが、誰とでも公平かつ平等に交流できる拠点としての役割を担う魅力ある施設であると同時に、子どもの権利条約の重要なキーワードである「子どもの最善の利益」の実現に向けて有用かつ重要な施設であると考え、来園した子どもたちが楽しくのびのびと遊べる安全で楽しい遊び場の確保に努める。

また、幅広い世代の利用者が、四季折々の美しい景観や緑豊かな里山の自然を感じながらリフレッシュできる環境の保全を図るとともに、子どもたちが自然に触れながら自らを大切に思う気持ちと他者を思いやる心をはぐくめるような多様な自然体験活動を安全、安心のもとに実施することで、学びある育ちの場となる施設運営を目指し、利用者満足度と利用率の向上に努める。

3 県立八ヶ岳少年自然の家運営事業

青少年が、家庭や学校などの日常生活から離れ、集団宿泊体験により自らを律する精神を学び、自然を身体で確かめられる様々な自然環境に自ら飛び込み、身体の内感を使っての自然体験活動により、自主性や社会的態度を身に付けることで学校生活等の充実に寄与する。また、利用団体の活動プログラムを尊重し、子どもたちと指導者双方に意義ある理想的な学習環境づくりと活動支援を実施する。

主催・自主事業については、八ヶ岳の麓にある高原特有の豊かな自然に恵まれた立地条件を活かし、幼児、小学校低学年、高学年の発育発達の特性に応じた内容の宿泊事業や、親子・一般の皆様を対象に季節を肌で感じ取れる多様な主催・自主事業を年間31事業実施する。令和4年度に更新されたプラネタリウムを活用し、秋冬にかけての事業を充実させて利用促進を図る。

なお、常に安全管理には万全を期すとともに、コスト意識を持ち、安定的かつ経済的に自立した施設づくりに努め、安心と信頼を兼ね備えた快適な環境を提供する。

III 収益事業会計 利用者支援サービス事業

- ・サービスの向上と満足度を高めるため、自動販売機による飲料水の販売等により利用者の支援をする。
- ・安定した経営確保のため、外部団体との提携により魅力ある自主事業を定期的実施し、施設の収入確保と利用率向上を図る。
- ・プラネタリウム番組を他の科学館等に配給する。